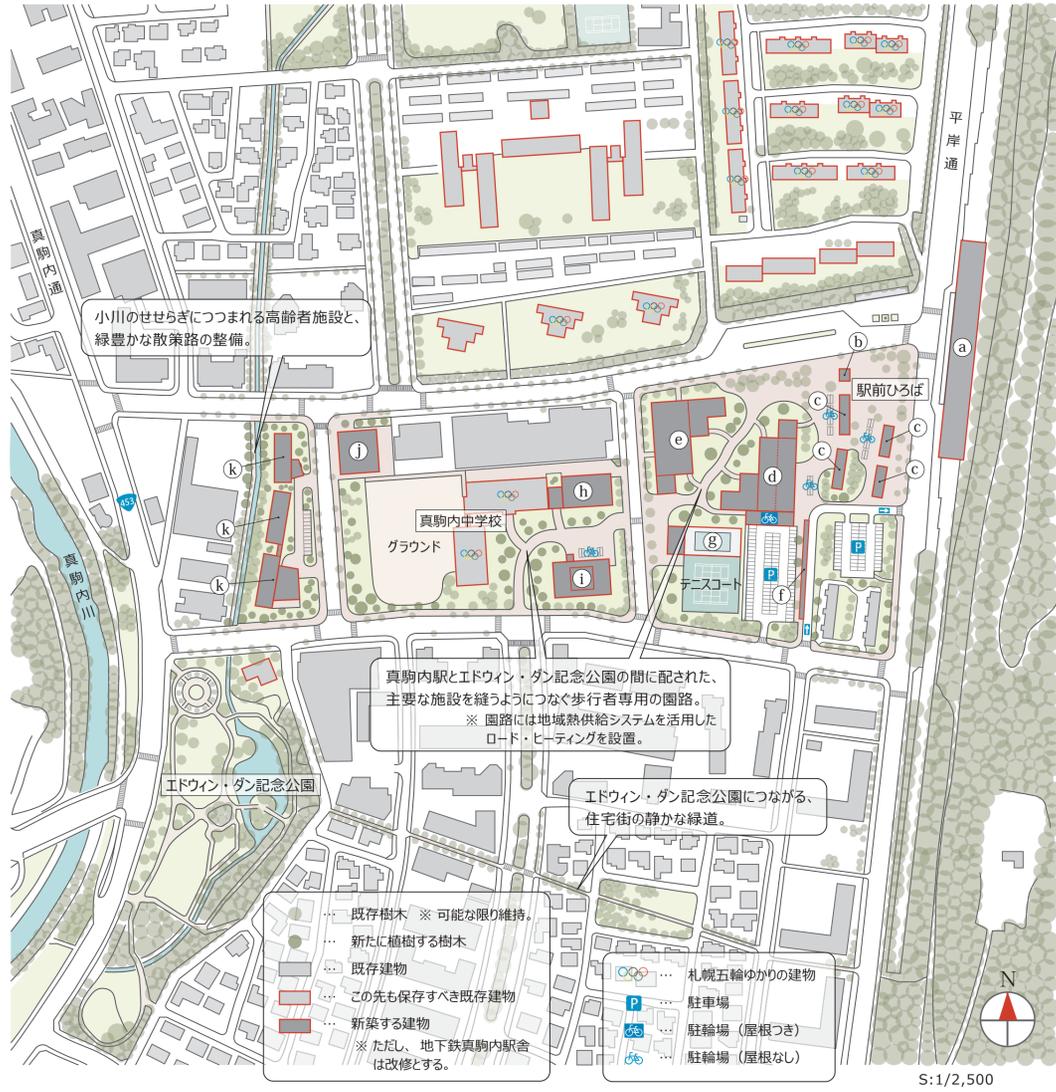


共有しよう という気持ちが真駒内を美しくする

真駒内駅前の端、ひっそりと目立たない場所にふたつ、ささやかな遊歩道があります。ひとつは、明治の北海道開拓期につくられた牧場のための用水路に沿って。もうひとつは、1960年代札幌冬季オリンピックを目前に開発されたニュータウンにつくられた細い緑道。

この街の歴史を彩るそれぞれの時代に描かれた二本の軌跡は、どちらもエドウィン・ダン記念公園へと続いていることをご存知でしょうか。ゆったりおおらかな大路が「街のスケール」であるならば、ふたつの小路は「人間のスケール」であるといえます。オリンピックの選手村として生を受けた五輪団地が、広大な緑のオープンスペースのなかで美しい都市景観をつくりだしているその真向側で、ゆるゆるとしたせせらぎの傍で成長した樹々たちにすっかり溶け込んだエドウィン・ダン記念館が醸し出す風情は、どちらも先人たちが遺してくれたもの。真駒内の大切なタカラモノです。

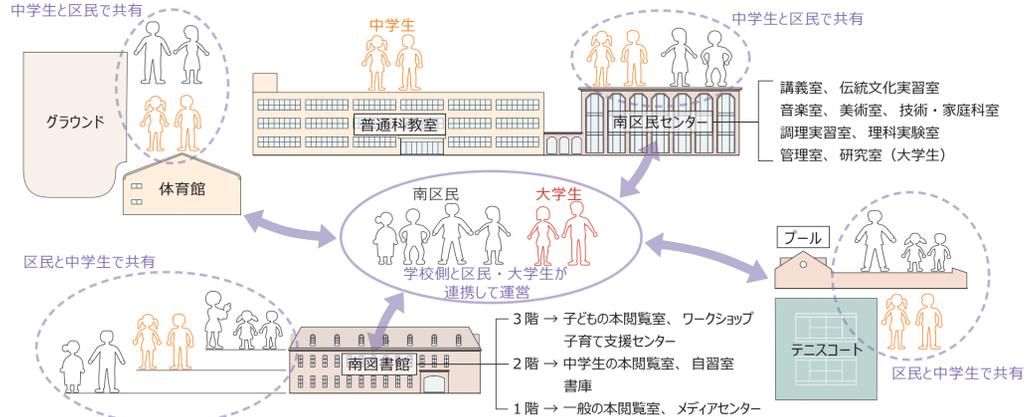
だから、2040年の人たちが暮らすこの街に、エドウィン・ダン記念公園と地下鉄真駒内駅とをむすぶ三番目の小路を描き、樹々に囲まれた新たな街並みを遺すことが許されるとしたら、そこに「共有する」気持ちをこめてみたいと思います。



本来、子どもたちは教育委員会を中心とした学校側だけに委ねるのではなく、地域の人々の手で育むのが理想です。たとえこの先少子化が進んでも、学校やコミュニティが魅力的であれば、自然と人が集まり活気生まれます。地下鉄真駒内駅とエドウィン・ダン記念公園のちょうど中間に位置する旧真駒内緑小学校の一部校舎と体育館を有効活用した新たな真駒内中学校を、南区民センターや図書館といった文化施設、プールやテニスコートといったスポーツ施設を区民と共有する「コミュニティ・スクール」として、まちづくりの精神的支柱に位置づけます。アイデアの実現化には、行政、それに区民や大学生が連携・協働しながら各施設間の垣根を取り払うといったプロセスが不可欠となります。

※コミュニティ・スクールは、文部科学省が推進する地域運営型の学校のことです。

コミュニティ・スクールの考え方を発展させた真駒内中学校のイメージ



- a 地下鉄真駒内駅**
南区の玄関口にふさわしく、背後の森にまもられた印象の駅舎。
- b 交番**
道警所有地の一部を、区民や観光客の集う「駅前ひろば」として開放し、駅前顔となる位置に交番を移設。愛らしく親しみやすい建物とする。
- c 店舗**
観光客の乗り継ぎや、区民の待ち合わせの際に利用できるカフェやレストラン。
- d 南保健センター**
歩行者専用の園路をはさんで、区役所と対になるように配置。駅前ひろばに面する東側のフロアは民間事業者にあてる。
- e 南区役所**
エントランスホールや廊下を介さず、樹々や芝生のなかからそれぞれの窓口につながる、開かれた場所。
- f 送迎車の乗降場**
マイカーおよび民間の送迎バス専用の、屋根付き乗降場。
※駅近辺の平岸通は、渋滞緩和のため駐車禁止。
- g プール**
隣接するテニスコートとともに、中学生と区民が共有する運動施設。
- h 南区民センター**
最新の設備を備えた中学校の特別教室の機能を内包し、区民と共有。
- i 南図書館**
3階に子どものための閲覧室、子育て支援センターを併設。
- j 南消防署**
- k 高齢者施設**
特別養護老人ホーム+デイサービスセンター+介護つき有料老人ホーム

